

2008年6月16日

県民の政治意識 中国とどう向き合う 報告書

(2008年5月22日～6月4日調査)

調査の設計	1
結果の概要	3
今回のポイント	8



社団法人 長野県世論調査協会
Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610
<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆調査の目的

中国に対する日本の位置関係が厳しく、かつ微妙さの度を増している。

経済的な相互依存が深まる一方で、政治的な亀裂が埋まらない「政冷経熱」がいわれて久しい。かつての侵略の歴史の反省と戦後処理のあいまいさから、首相の靖国神社参拝や教科書記述をめぐる食い違いなど、両国の隔たりは容易に埋まらない。

最近の中国産食材の汚染・中毒騒ぎ、五輪聖火リレーにチベット問題がからんだ混乱、東シナ海の天然ガス田開発の対立が続き、めざす「戦略的互惠関係」を揺るがす事態が続く。安全保障の基本軸と地球環境の面での懸念も根強い。

観光、ビジネス、就労などで人的交流が進み、四川大地震の救援活動をめぐる友好感情を抱きつつも、日本サイドでは隣国の動静に警戒心を緩められない状況に置かれている。

今夏の北京オリンピック開催が迫り、中国がいや応なしに自己変革を問われる節目に、日本とかかわりの深い韓国、ロシア、米国の多国的環境の中で、中国と今後どう向き合っていくのか、県民世論の動向を探る。

◆調査の設計

調査対象 長野県世論調査協会の登録モニター
県下の成人500人（男性247人 女性253人）
＝全県有権者の縮図になるように構成

▽調査時期 2008年5月22日調査票発送～6月4日回収締め切り

▽有効回収数（率） 482人（回収率96.4％＝男性239人 女性243人）

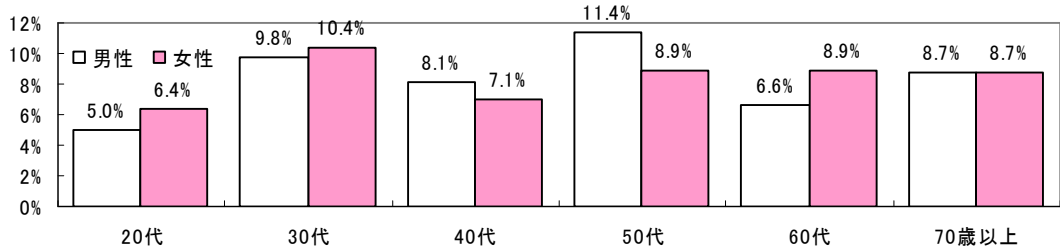
▽回収内訳 郵送 230（47.7％） ファクス 132（27.4％）
電話聞き取り 59（12.2％） インターネット 61（12.7％）

<注>報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

回収サンプルの内訳

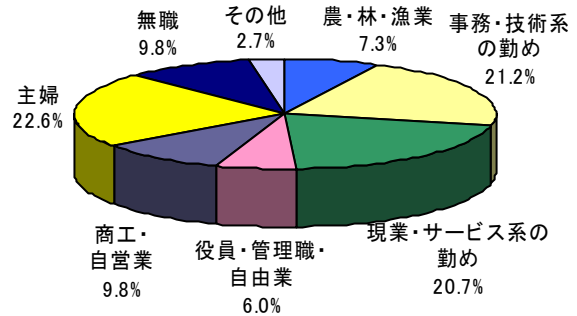
【性別と年代】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	482	55	97	73	98	75	84
	100.0%	11.4%	20.1%	15.1%	20.3%	15.6%	17.4%
男性	239	24	47	39	55	32	42
	49.6%	5.0%	9.8%	8.1%	11.4%	6.6%	8.7%
女性	243	31	50	34	43	43	42
	50.4%	6.4%	10.4%	7.1%	8.9%	8.9%	8.7%



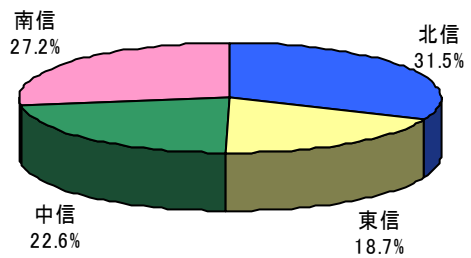
【職業】

農・林・漁業	35	7.3%
事務・技術系の勤め	102	21.2%
現業・サービス系の勤め	100	20.7%
役員・管理職・自由業	29	6.0%
商工・自営業	47	9.8%
主婦	109	22.6%
無職	47	9.8%
その他	13	2.7%



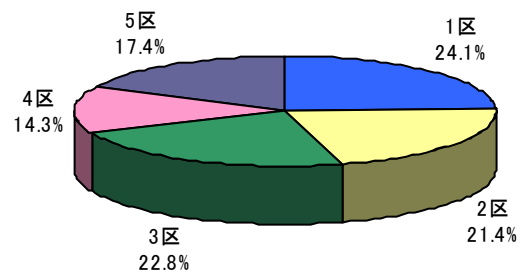
【地域】

北信	152	31.5%
東信	90	18.7%
中信	109	22.6%
南信	131	27.2%



【選挙区】

1区	116	24.1%
2区	103	21.4%
3区	110	22.8%
4区	69	14.3%
5区	84	17.4%



II 結果の概要

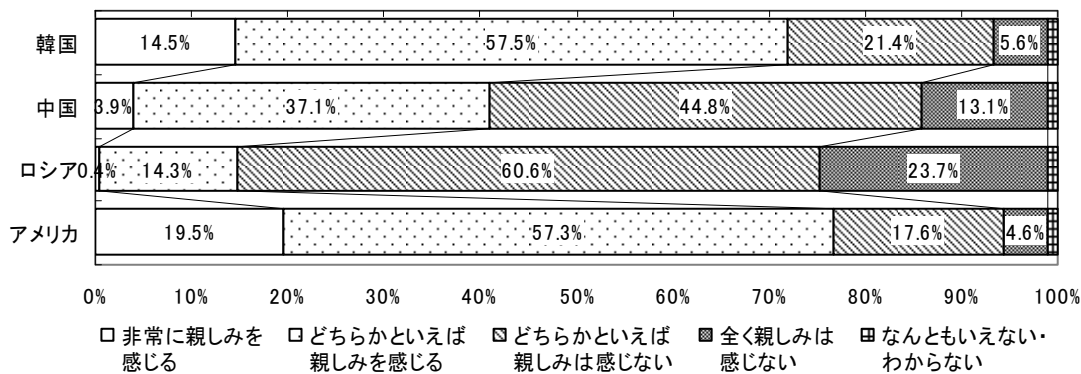
中国・韓国・ロシア・米国との関係

親しみを感じるのは

◆トップ米国77% 続く韓国 中国、ロシア「感じない」多数

中国、韓国、ロシア、米国の4カ国に対する親近感は、総体で米国が77%で最も高く、韓国が2番目で72%。中国はかなり下がって41%で「親しみを感じない」が半数を超え、ロシアは80%を突破する。

「非常に親しみを感じる」が米国、韓国の順で高め。「全く感じない」はロシアの24%に次いで、中国が10%台の高めになっている。

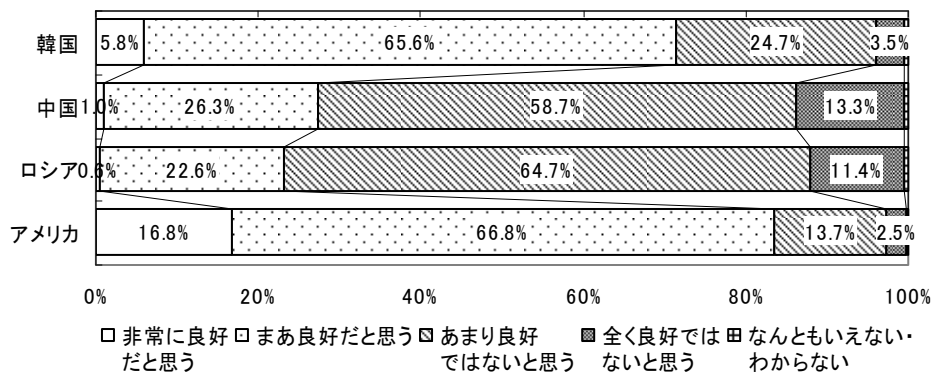


中国に「親しみを感じる」は、男女間にめだつた違いはないが、60代以降の高い年代層では半数程度に高まる。しかし、50代では「感じない」が70%近くを占める。

自民党の支持層の親近感が46%と平均を上回るが、民主党では36%、支持政党なし層でも37%に落ち込む。

関係が良好と思うのは

◆「米国」80%突破 「中国」には否定的70%超



日本との関係が「良好だと思う」は、米国が総体で84%の高率を示し、次いで韓国も70%

台に達し、個人的な親近感にほぼ連動する。中国に「良好だと思う」は27%、ロシアには23%にとどまり「良好ではない」がほぼ4人に3人を占める。

中国に対して、男性で「良好」が30%を超えるが、女性では24%にとどまる。60代以上では「良好」が40%台に伸びるが、20代では否定的な受けとめが87%に高まり、50代でも高めになっている。

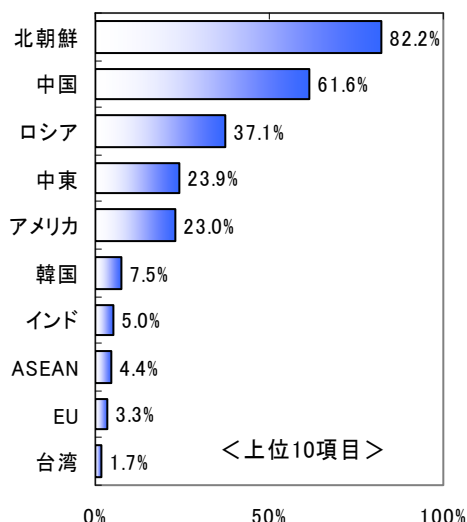
日本の安全保障に脅威なのは

◆圧倒的に「北朝鮮」 二番手「中国」「ロシア」「中東」上位に

「北朝鮮」が80%を突破して他を引き離し、2番目に中国が60%台で続く。3位「ロシア」に次いで、4位に「中東」が入り「米国」「韓国」の順。

中国に対して、男女にあまり開きはみられないが、年代層では50代が突出する高さ。職業層では管理職層、農林業で高めになっている。

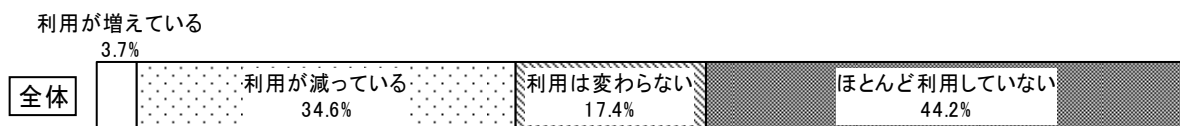
アジアで日本の影響力が強まっているとする層は、中国を脅威とみるのが平均値に届かないが、弱まっているとする層では67%に高まる。



中国との結びつき

◆最近の中国産食材の利用

◆「減った」35% 「利用せず」44% 「変わらない・増えた」21%

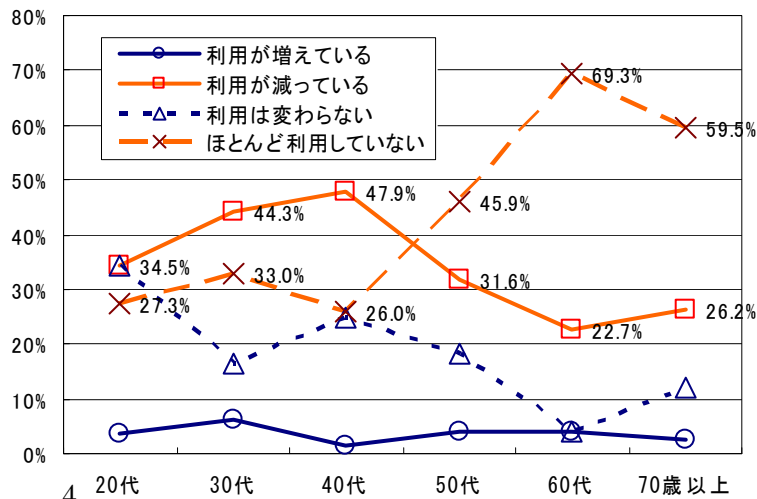


中国からの輸入冷凍ギョーザの中毒問題がまだ決着していない中で、中国産の食材の利用が「減っている」が35%。「ほとんど利用していない」(44%)を加えると80%近くが“中国離れ”している。

「増えている」はごく少なく「変わらない」を加えても20%余にとどまる。

女性で「減少」が高めで「利用し

◆年代別では



ていない」が半数を占めており、男性に比べて反応が厳しい。年代層では30～40代で「減っている」の割合が高め。60代で「利用していない」が70%に迫り、70歳以上（以下「70代」と略記）でも高くなっている。

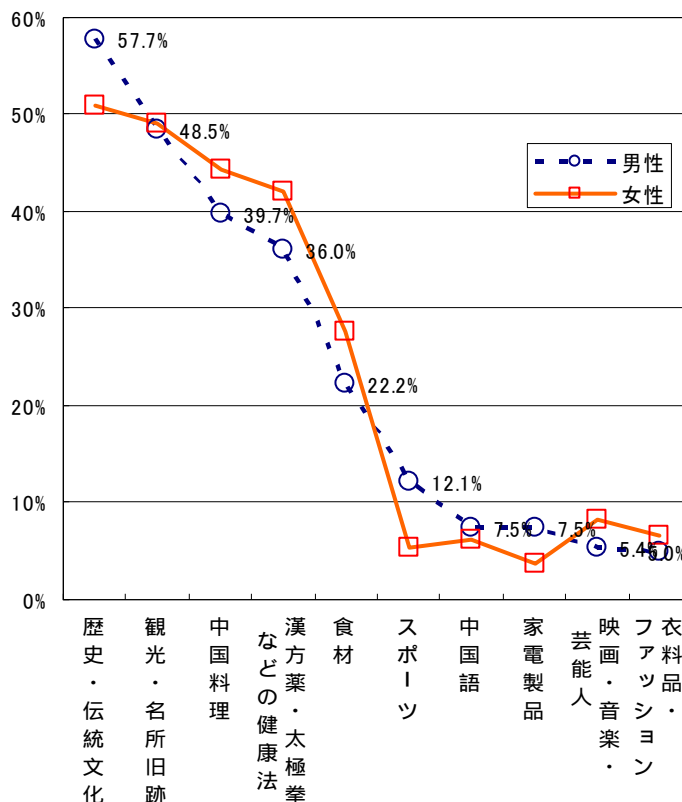
中国に興味・関心のあること

◆「歴史・伝統文化」トップ「観光・名所」「料理」「健康法」の順

中国に対する興味・関心は「歴史・伝統文化」が最も高く、2番目には「観光・名所旧跡」がランクされ「中国料理」が3位。「漢方などの健康法」「食材」が上位に入ったが「家電製品」「衣料品・ファッション」「中国語」は下位に置かれている。

男性で「歴史」が高めで、女性は「料理」「健康法」でややリード。高い年代層が「歴史」「観光」で高くなっているのに対して、20代で「映画・音楽・芸能人」と「衣料品」が高めになっている。

◆男女別では

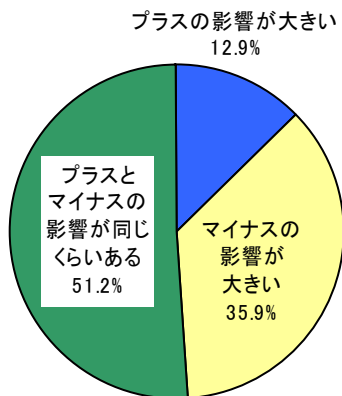


今夏開催される北京オリンピックに「関心がある」が総体で62%。このうち「かなり関心がある」は70代が30%と最も高い。

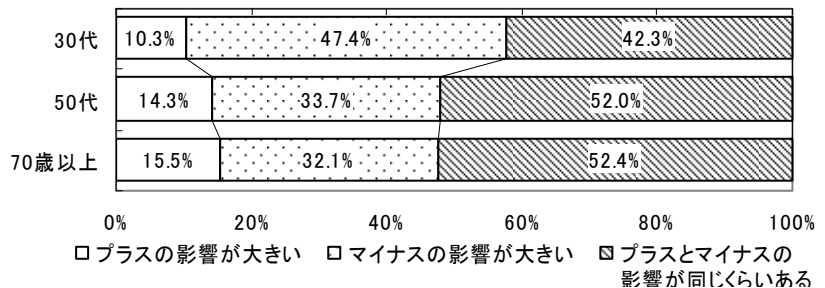
日本にとって中国の経済発展は

◆「プラス」13% 「マイナス」36% “功罪”半ば51%

中国の経済発展が日本に与える影響は「プラスが大きい」が13%なのに対して「マイナスが大きい」は36%と大幅に上回る。他方、プラス、マイナスが「同じくらい」が半数を占める。



◆年代別では



男性で「プラス」がやや高め。年代層では20代で「プラス」が20%に迫り最も高いのと対照的に、30代で「マイナス」が半数近くにのぼる。また「同じ」は40代で64%に高まる。

今後の日中関係が良くなるとみる層総体で「プラス」18%—「マイナス」28%なのに対して、悪くなるとみる層では「マイナス」が半数を超える。

日本と中国が優先的に協力すべきこと

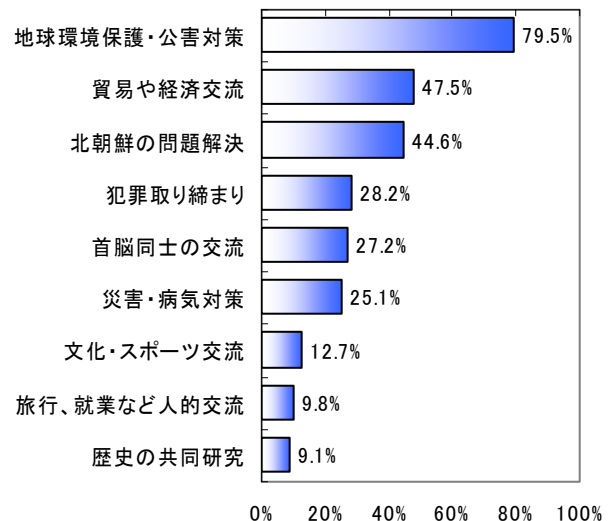
◆「環境・公害」引き離す 「貿易・経済」に続く「北朝鮮問題」

「地球環境保護・公害対策」が80%の高率で断然トップに挙げられ、男女に開きはなく、60代では90%に達する。

2番目には「貿易や経済交流」がランクされ、男性の度合いが女性に比べて10ポイント余上回る。3位は「北朝鮮の問題解決」で女性がやや高め。

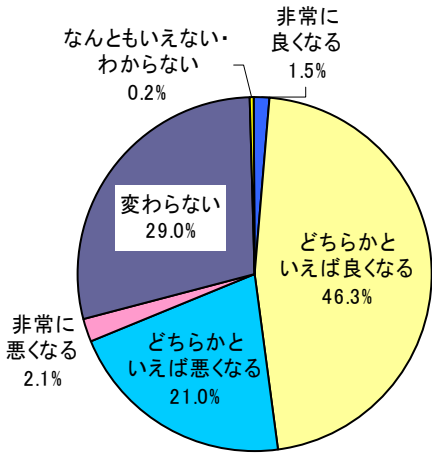
4位からは「犯罪取り締まり」「首脳同士の交流」「災害・病気対策」の順で続く。過去の戦争の反省を踏まえた「歴史の共同研究」は振るわない。

中国に親しみを感じる層総体で「貿易・経済」や首脳、スポーツ、就業などの「交流」が高めなのに対して、親しみを感じない層は「環境」「北朝鮮」で高めになっている。



今後の日本と中国の関係

◆「良くなる」半数に迫る 中高年齢層が楽観視



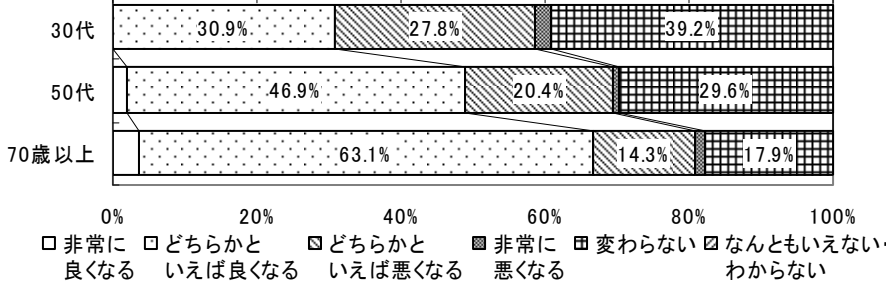
日中関係が良好とみる層は「良くなる」が70%超のハイレベルだが、良好ではないとみる層は「悪くなる」が4人に1人。「変わらない」も3人に1人と多くなる。

「良くなる」が総体で半数に迫り「悪くなる」は4人に1人程度の色分けの一方で「変わらない」が30%弱。

「良くなる」で男女に大きな違いはなく、年代が高まるのに伴って増え、70代では70%近くになり最も高い。

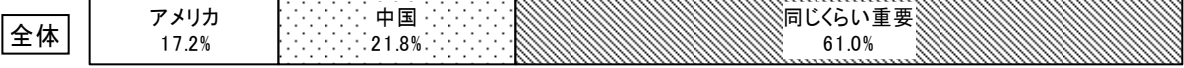
政党支持層では、自民党で「良くなる」が半数を超えるが、民主党では46%、無党派層で40%余の温度差がみられる。

◆年代別では



日本にとって中国と米国のどちらが重要？

「米国」17% 「中国」22% 「同じくらい」60%超

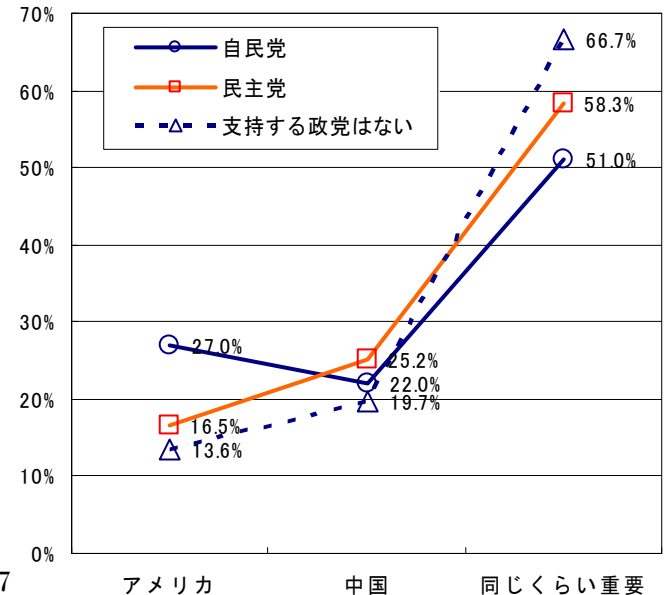


「同じくらい重要」が60%を超える中で「中国」が22%、「米国」は17%と微妙に分かれた。

年代差がはっきり現れ、40代は「米国」がやや優勢、50～60代では「中国」がリード。20～30代と70代では、米中ともに20%前後で並ぶ。

政党支持層では、自民党は「米国」が27%で民主党を10ポイント引き離す。民主党は「中国」がやや上回り、無党派層は米中ともに平均値を下回り「同じくらい」が伸びる。

◆支持政党別では



Ⅲ 今回のポイント

日本の対外的な影響力

対中国の懸案について

◆ ギョーザ中毒、ガス田など **自分の主張貫くべき** 圧倒的な高率

◆ 首相の靖国参拝は **中国の主張に配慮すべき** 46%

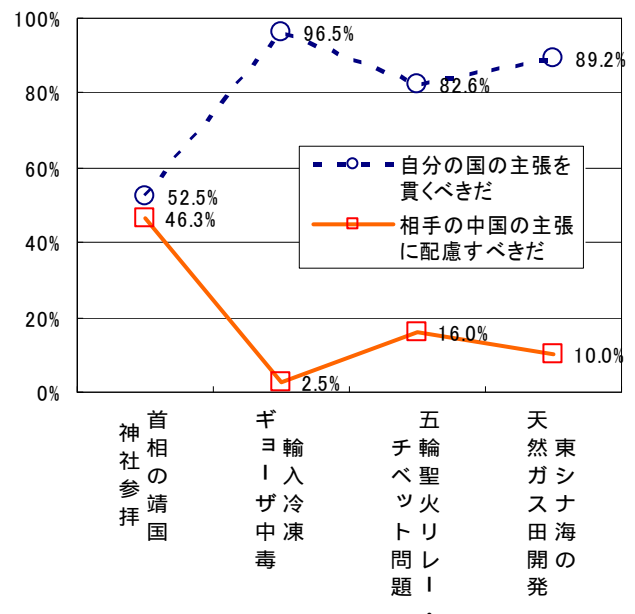
冷凍ギョーザ中毒で、日本は「自分の主張を貫くべきだ」が大半を占め、東シナ海の天然ガス田開発、五輪聖火リレー・チベット問題で80%以上の高率を示した。

その一方で、首相の靖国神社参拝には「自分の主張を」が53%、「相手の中国の主張に配慮すべきだ」が46%と接近し、長年、両国の対立の火種だった複雑さを反映した。

靖国参拝では、男性が「自分の主張を」が56%に伸びるが、女性は「中国に配慮を」がほぼ半数にのぼる。

年代層では、20代と50代以降は、日本の主張に力点を置くが、30代は中国への配慮重視がリードし、40代でほぼ並ぶかたちになっている。

アジアで日本の影響力が強まっているとみる層は「中国に配慮を」が半数を超えるが、影響力が弱まっているとみる層では逆に「自分の主張を」が優勢になる。



外国に対する日本の意見・立場

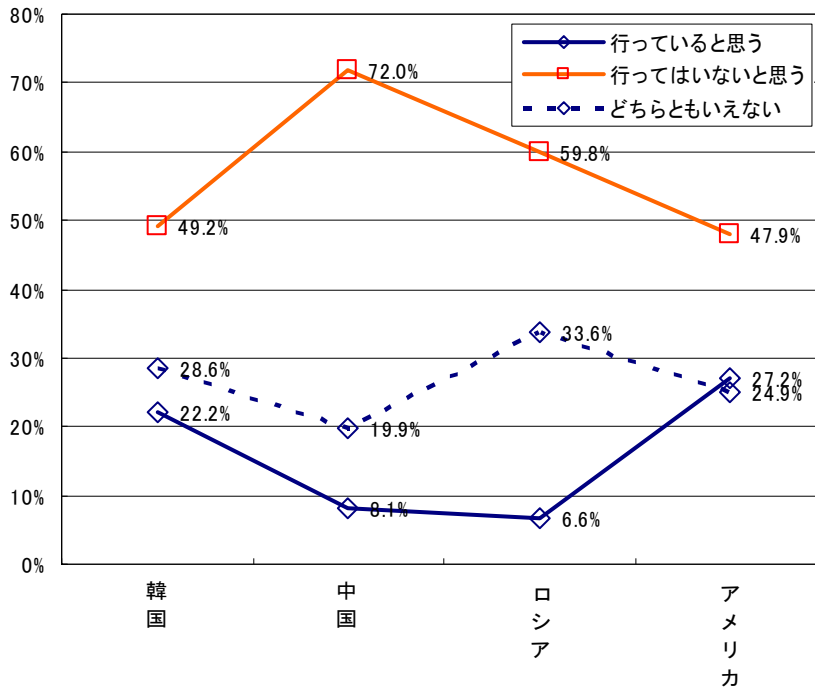
正確に伝え、理解させている 「中国」が8% 最も高い「米国」でも27%

日本の意見を伝え、理解させているかどうかには肯定的な受けとめが最も高いのは米国の27%、韓国が22%。4カ国ともに30%に届かない中で、中国8%、ロシア7%と極端に低くなっている。

否定的な受けとめは、中国が筆頭で70%を突破し、ロシアが60%。米国、韓国は辛うじて半数を割ったが、総じて日本の意見・立場の“限界感”が色濃く示された。

中国に対して、男性の否定的感度が高く、年代層では30~50代で80%を超える。職業層では商工自営、管理職層、現業・サービス系勤め人で高めになっている。

政党支持層でみると「意見を伝え、理解させていないと思う」が自民党で67%、民主党70%でほぼ足並みをそろえ、無党派層は80%に迫る高さになる。アジアでの日本の影響力



が強まっているとする層は「理解させている」が20%近くで高めだが、半数は否定的。影響力が弱まっているとする層では「理解させていない」が77%になる。

アジアでの日本の影響力

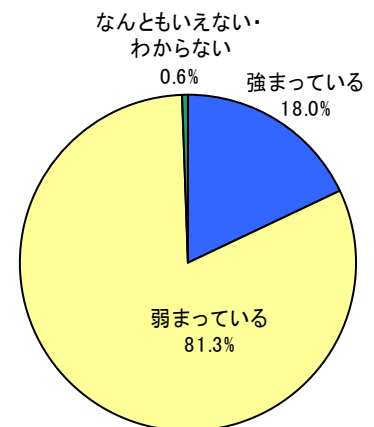
「強まっている」20%に届かず 「弱まっている」男性 85%－女性 78%の差

「強まっている」が18%にとどまり「弱まっている」が80%を超える。女性は「強まっている」が20%を超えるが、男性では85%が“弱化”とみる。

年代層では70代で「強まっている」が30%と最も高く、20代でも20%と高め。

政党支持層では、自民党で「強まっている」が30%と高くなっているが、逆に民主党、無党派層は「弱まっている」が85%超の高さになる。

現在の日中関係が良好と受けとめる層は「強まっている」27%。逆に、良好ではないという層は「弱まっている」が85%になる。



◆男女別では

